

第 10 回青葉山公園に係る仙台城跡整備委員会

- I. 開催日時 平成 25 年 3 月 15 日（金）午後 3 時 00 分～午後 5 時 30 分
- II. 開催場所 仙台市役所 2 階第 4 委員会室
- III. 出席者
- （委員） 入間田 宣夫・黒田 乃生・鶴飼 幸子
北野 博司・森 富二夫・脇坂 隆一
（欠席 横山 英子・田中 哲雄）
- （宮城県） 白崎恵介（文化財保護課 主任主査）
- （事務局） **【教育局】**
- | | |
|----------|-------|
| 生涯学習部長 | 山口 宏 |
| 文化財課長 | 吉岡 恭平 |
| 仙台城史跡調査室 | |
| 主幹兼室長 | 工藤 哲司 |
| 主査 | 嶋崎 要悦 |
| 主査 | 佐藤 淳 |
| 主査 | 渡部 紀 |
| 主任 | 庄司 義雄 |
| 主任 | 熊谷 智顕 |
| 文化財教諭 | 村上 芳成 |
- 【建設局 百年の杜推進部】**
- | | |
|-----------|-------|
| 公園課長 | 佐々木 亮 |
| 青葉山公園整備室長 | 菅原 洋 |
| 主査 | 小窪 健 |
- 【青葉区 建設部】**
- | | |
|--------|-------|
| 公園課長 | 篠崎 淳 |
| 公園係長 | 土田 和彦 |
| 道路課長 | 高橋 正志 |
| 道路建設係長 | 佐久間 寛 |
| 主査 | 高橋 忠宏 |
- （報道機関） 3 社（3 名） ミヤギテレビ，日本建設新聞社，建設通信新聞社
- IV. 傍聴人 3 名

※ 議事録署名：議長（入間田委員長） 北野博司委員を指名

立てる前に、何をどう残すかの整理がされていないと議論にはつながりません。

議長（入間田委員長） 図1は、あまりに大雑把で全体の状況が分からない。現場での説明ではC面は、後から盛土をして造ったのに対して、D面の入隅付近は、古いタイプの石垣があり背後には地山が伸びており、また、FG面の入角部分は、古い絵図（正保絵図）ではつながっていることなど様々な話があったが、それが図面に反映されていない。どの部分が本来の古いタイプの石垣が残っているとか、背後が地山か盛土か、どの部分が昭和以降の修復部かという資料もない。復旧方法についての議論の前提として、現地での話を整理しておく必要があります。

工藤仙台城史跡調査室長 現場では、石垣栗石の背後が、地山が切り出された状態の部分と、盛土の部分、中間的な部分がありました。地山の問題や裏込め材については、調査に基づき整理するのを感じます。実際に積み直しをするまでに、崩落の要因を分析する中で詰めたいと思います。

議長（入間田委員長） 本委員会は、調査指導委員会で石垣の評価についてご議論をいただき、その見解が出てきてから復旧工事の方法の議論をするのが適切と考えます。調査指導委員でもある北野先生いかがですか。

北野委員 そのとおりと思いますが、調査指導委員会の開催時は現状のように解体が進む前の段階だったので、議論はされていません。

工藤仙台城史跡調査室長 前回の調査委員会は2月の15日に開催され、その段階ではまだ、解体途中でした。今後、調査指導委員会にも解体調査のデータを提供し、ご意見を伺い、復旧に活かすようにしたいと思います。

議長（入間田委員長） 今回は、解体調査のデータをこれから詰めることを前提に、大まかな整理段階での工事方法ということになります。

鵜飼委員 すると基本的方針の崩落の要因は、資料の1)・2)・3)と、北野先生が言われた石垣の積み方を4)が入るということですね。そして、石垣復旧に際して最低限何を残すのかが分からないと、議論が出来ないというお話でした。今回どこまで詰めればいいのか。

工藤仙台城史跡調査室長

石垣の復旧方法について、解体前の段階では、できるだけ残っている遺構を壊さないで解体する、ということをご了解をいただき作業を進めてきました。今後それを積み上げるに際し、今あるデータを分析し、伝統的な工法を基本とすること、今ある石材については解体したものを元の位置に戻し、しかも出来るだけ新たな加工をしないで作業を進めるといことです。そのなかで、そのまま積み上げた場合には再度の崩落の恐れがある石材があれば、それは新しいものも使います。それと通行量の多い道路の際で、高さがあり、何度も同じところが崩れている部分には、現代工法を最小限の範囲で使いながら作業を進めたいという方向性を、委員会からご了解をいただければと考えています。

議長（入間田委員長）

例えば、資料：協議の1-②の写真1に、地山粘土層と盛土層がきれいに分かれています。これを記録化したり、古い段階の石垣や新しい石垣の区分の整理をしたりすることを後回しにして積んだら、元の状態が分からなくなります。裏込めを全部同じようにしていいかの議論も必要です。そこを確実にやっていただけるのであればいいと思います。

吉岡文化財課長

ただ今ご指摘のあった石積みの関係で、崩落の要因については、地山と盛土での関係などの記録をとっておりますので、再度チェックしながら早急にまとめ、何を残すか等を含めて資料をご提示しながら進めたいと思います。

議長（入間田委員長）

委員会全体の協議でなくても、節目で北野先生などに連絡をして助言を受けて下さい。段階を踏んでいただきたいと思います。

森委員

北野先生や委員長のような専門家に判断していただきながら進めるしかないと思います。ただ、安全・安心なものに直して欲しいので、補強ネットが必要だということであれば、検討して下さい。

議長（入間田委員長）

復旧方法で他にご意見がありますか。

北野委員

復旧方法の基本的な考え方の3)の構築石材について「崩落部分で使用可能な石材も可能な限り新たな加工をせずそのまま使用する」とされていますが、これは是非お願いしたい。そのためには崩

れた石を元の写真や図面を見て、どこにあったのか積む前に特定しておく必要があります。位置が分からない状態では、再加工しないで積むのは困難です。位置の特定作業は、積み直しのときにやるのではなく、解体時からやっていただきたい。

議長（入間田委員長） 崩落した部分は、昔の写真とか図面とかで検討する以外ないのですが、その辺はどうなっていますか。

工藤仙台城史跡調査室長 解体しながら位置の検討はできませんでしたが、崩落石材は、測量しながら取り上げています。縦列の位置関係はあまり動いていないと考えられるので、その関係明らかにし、その組み合わせや石材の形態を十分検討し、可能な限り元の場所に戻したいと考えています。

議長（入間田委員長） 崩落前の写真はありますか。

工藤仙台城史跡調査室長 C・D・E面は、協議資料の1-⑤から⑦に崩落前に文化庁の補助を得て写真撮影と図化したデータがあります。こうした資料との照合を含めて、どこにどう戻すか検討します。
また、復旧方法にも書いてあるように、積み方の様式も資料のある部分については、落し積みのような比較的新しい積み方のも含めて、被災前の状態を基本として戻したいと考えています。

北野委員 仙台城の場合は、非常に規格的な石材を使っているのですが、崩落石材の場所の特定は、大変な作業になると思います。

伝統工法を基本とし、それに付加する近代工法、現代工法の部分は導入する理由が説明されていますが、気になったのは粒度調整です。摩擦を上げるためだと思いますが、粒度調整として碎石を加えるのは、伝統工法、現代工法という区分ではどちらの認識ですか。また実際に使う予定の碎石とはどんな碎石を考えていますか。

嶋崎主査 碎石は、割り石を使う予定です。通常碎石というのは、ゼロ分と言う細かい碎片入りますが、今回は砕いてはいますが、細片は入っていません。玉石の隙間に入る2cm～5cmくらいの粒径のものを2種類ほど混ぜて使用する予定です。

北野委員 それは、現代工法と伝統工法のどちらと考えていますか。

嶋崎主査 現代工法では、割り石だけを使っていません。現代工法では、ゼロ分の入ったものが路盤剤とか基礎に使われています。この粒度が揃ったものを入れるということと言うと昔の材料・工法に近いもので石に角があるものという捉え方です。

北野委員 仙台城の石垣をみると、確実にこういう粒度調整をやっているような技法は江戸時代には無いと思います。仙台城の自然石を積んだ古い石垣は、裏込めの粒度がかなりバラけていることが観察できます。それをどう評価するかです。その辺も技術的にどういうものか認識した上で粒度調整を導入して欲しいと思います。

補強ネットも、高石垣で効果があったので導入するということだと思います。今回は、周辺環境の関係で補強が必要だという説明も分かりますが、今後こういうものをどのような場合に使う、あるいは使わないかの整理や、使うことが短期的には地震に有効でしょうが、長期的にどんな影響があるか考えておく必要があると思います。

石垣は柔構造なので、全体が揺れて変形はするけれども、結果的には持つような構造の中で、裏込めと裏盛土をネットによって一体化させた場合、背面地盤の違いや表面の石積みの違うところにどんな影響をあたえるかが問題です。いい影響ばかりでは無いと思うので、その辺の評価を予め考えていただきたいと思います。

議長（入間田委員長） そこはこれからの宿題ということで、踏み込んで検討して下さい。

北野委員 世界遺産暫定リストの荒船風穴では、古い栗石材と、新たに加える粒度調整の石材が後世に振り分けられるように、違うものを敢えて入れように設計しています。同じように割栗の区別はできませんか。

嶋崎主査 難しいです。ただ、玉石と割り石の区別はできます。また割石は青みを帯びています。

北野委員 一つの段階として、そのように区別できるというもの、考え方としてあっていいと思います。

工藤仙台城史跡調査室長　　今回、この協議を当委員会に提出したのは、平成 25 年度の災害復旧工事に際し、史跡の現状変更許可を文化庁から得る必要があります、その申請手続きの前提として、復旧工事の基本的方向を委員会に了解をいただくためです。

具体的な復旧工法の内容については、現状変更の許可後に発掘調査を行い、その状況を調査指導委員会に報告し、また整備委員会に具体的にどう積み上げるか説明をして、承認をいただきながら進めたいと考えています。

発掘調査は、今回は災害復旧ということで範囲が限られますが、委員長からご指摘のあった様々な課題を認識しながら、調査指導委員会にも相談しながら遺漏の無いように進めたいと思います。

議長（入間田委員長）　西門は、仙台の城下町の方から見ると裏口みたいになっていますが、戦国時代以来の概念で言うとこれが大手門です。これをきちんと調査して復旧することは、全国的にみても仙台城の評価に関わる重要なことです。ここでは今説明を受けたような一般的な方向性で事業にかかり、実際には調査の進展を踏まえて調査指導委員会にご議論をいただき、施工にあたってはその議論に基づいて整備委員会にも提案があるということですね。

吉岡文化財課長　　委員長のご指摘を十分に認識した上で、解体及びそれに伴う調査、積み直しをしたいと思います。調査の際には調査指導委員会の議論等を十分踏まえて、判断をしていきたいと思います。

議長（入間田委員長）　具体的な方向性についてのご意見はありますか。

北野委員　　資料協議 2－③の標準断面図と石垣解体の考え方についてです。本丸北西石垣の解体の計画にも当初は標準断面がありました。実際の解体調査の時には遺構を最大限残していただき良かったと思っています。

この西門の解体も、国史跡ですので遺構の保護が原則で、それができない場合には、何らかの対応措置をとる必要があります。協議資料のような、予め標準勾配があり遺構への影響がある場合に掘削範囲を軽減するのは本末転倒だと思います。考え方としては、遺構保護を最初に謳ってほしいと思います。

った西門石垣のような重要な場所が見られるようになったので、早い機会にどう見せることができるか内部で議論したうえで、本委員会にご相談したいと思います。

議長（入間田委員長） 特に西門は、仙台市民にも絶対見てもらい仙台城跡の認識を深めていただきたい場所です。今後の調査においても、見学について色々努力して欲しいと思います。

それでは、本日予定していた議題はここまでとしたいと思います。閉会の前にオブザーバーとしてご出席いただいた宮城県の白崎からコメントをいただけますか。

宮城県文化財保護課白崎主任主査 この委員会は、大方針あるいは方向性を議論していただき、次の事業を進めて行くという流れだと思っておりますが、先生方からご指摘がありましたように、細かいデータや情報を揃えた上で方針を示してもらえると先生方も議論しやすいと感じました。

西門の重要性について、改めてご指摘いただきました。これは、災害復旧の先をしっかりと見据えなさいという指摘と受け止め、私達としても次の事業展開を考えていきたいと思っております。

6 閉会

議長（入間田委員長） それでは事務局から何かありますか。

工藤仙台城史跡調査室長 ご指摘の点を検討し、早目に資料を出して十分な議論とご指導をいただいで進めたいと思っております。事業が始まった段階で現地を見ていただくとか、委員長からお話がありましたように、専門家の北野委員や田中委員にご相談をしながら進めたいと思っております。

議長（入間田委員長） それではこれでお終ります。どうもありがとうございました。

吉岡課長 本日は現場と会議でのご指導ありがとうございました。報告やまとめに不足・不十分があった点はこれから検討いたしますので、今後ともよろしく願いたします。本日はありがとうございました。

以上